

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0171500903		
法人名	社会福祉法人福島幸愛会		
事業所名	グループホーム陽光園		
所在地	北海道松前郡福島町字三岱 1 6 0 - 1 6 (電 話) 0139-47-2650		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年8月15日

【情報提供票より】 (平成 2 0 年 5 月 2 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 1 7 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	24,000~30,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要 (5月21日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.3 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科消化器科クリニック 深浦内科医院 富山歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に囲まれた福島町のこの一角には、特養、生活支援ハウス、デイサービスセンター等とともに、当事業所が立ち並んでいる。かつて開発局福島道路作業所として使用されていた建物を改築し、グループホームを開設しており、事業所内の共用部分は、明るく広々と開放的に改良している。採光豊かな居間には、利用者が自由にくつろぐ姿があり、ゆったりと時間が流れている。また、利用者と管理者が協働で作った菜園には、12種類もの苗がすくすくと伸び、利用者が笑顔で作業をしている。「利用者第一主義」をモットーに、地域や役場との信頼関係を築いてきた管理者の30年余の経験は、全職員にも浸透し、理念を共有している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	チームケア充実のため、月1回定期全体会議を実施し、内容を記録している。事故報告については、些細なことでも家族に相談し、ヒヤリハットに記録することを徹底するように改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価の実施により、マンネリ化がよく見え、それを防ぐ効果は絶大であった。また、利用者の生活歴をケアに活かす工夫に努めており、更なる取り組みに期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3月に初めて開催した会議は、顔合わせ的要素も伴っていたが、全員の共通した意見として、「利用者は町民である」との認識の下、事業所全体が孤立した環境にならないよう、交流の輪を広げることで一致し、今後の取り組みが期待できる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	現在のところ特に苦情はないが、運営上必要不可欠とみて、苦情・要望・相談箱の設置を早急に予定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民にも高齢独居が多く、冬場の除雪・夏季の草刈等、大変困難になってきている。そこで、事業所の管理者は自ら機械を使い、事業所周辺と近隣の高齢者住宅の除雪や草刈も事業所と同時に作業にあたり、住民はむろんのこと遠方の家族等にも大変感謝されるなど、良好な関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当地に暮らして、「ゆったり、のんびり、楽しく、自分らしく」過ごせることを目指した理念を、開設以来、事業所独自なものとして掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者のケアに対する真剣な考えを、全職員が共有し、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事に参加するとともに、祭りなどには事業所まで神輿が立ち寄るなど、町民の一員として共に楽しく交流している。地域住民より、山菜・野菜などの差し入れなどもある。また、近隣の高齢者宅周辺の草刈りや、冬期間の除雪等を管理者が自ラ行い、遠方の家族等からも喜ばれ、頼りにされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の実施は、マンネリ化を防ぐ上でも意義のあるものと認識している。管理者・職員は、全体会議で話し合いの上、評価を改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に初めての会議の開催を行った。全体としては顔合わせの要素もあったが、「利用者は町民」という考えの下、事業所が孤立しないように交流の輪を広げていく話し合いを行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と町担当者等とは、27年間もの交流があり、常に連絡を密にとり、運営上の相談等が出来るような関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りの発行は、各家族より「日常の親の様子が良いわかる」と、大好評である。また、出納簿については、1年を通して記帳できる様式のものを使い、毎月コピーして領収書と共に家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者は明確にしている。現在のところ苦情はないが、苦情・要望・相談箱の設置を早急に予定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人採用の場合は、利用者と顔馴染みになるまでの間、日勤体制をとっている。結婚・出産により退職した職員以外は、離職者はいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を育てる義務があると感じている。事業所周辺の交通の便により、研修参加時には移動時間を含め丸1日要するなど負担が大きい中で、外部への研修はおよそ年2回位実施している。研修終了後は、復命書にて報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	遠方の同業者との交流は難しい状況であるが、近隣の松前町、木古内町等との交流を検討しており、相互訪問の意義を感じながら取り組む姿勢である。	○	利用者の生活向上と、職員の質の向上のために、交流を目的に事業所間で協力し合い、実践に向けて努力するよう期待する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族と共に見学に訪れる場合が多いが、利用を希望しても見学に来ることができない場合は、自宅訪問という形をとり、馴染みになるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、共に暮らしていくという心がまえや、人生の先輩として利用者から教わることの大切さを実感している。共に笑ったり、唄ったりしながら、支えあう関係作りを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中からも、一人ひとりの生活歴を把握し、ケース記録に記載している。意向の把握が困難な場合は、理念の原点に戻り、利用者が求めるケアの提供を考え実践するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームによるケアの充実のため、月1回定期全体会議を実施し、内容を記録して、介護計画書を作成している。毎日のミーティングを大切にし、連絡帳にも記入し、それを基に、計画作成者が家族と相談の上、計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間(6ヶ月)を明示しており、期間終了前に見直しを行うことはもちろんのこと、状況変化があった場合は随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情を考慮し、遠方の病院へも利用者の受診のため職員が同行する。その他、墓参・法事・見舞い等、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・耳鼻科等、町内に無い診療科への受診も、一日がかりで同行するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス開始時に、重度化した場合についての話し合いを家族と充分行っている。また、併設事業所に2名の看護師が常勤しており、相談ができる体制である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみをこめた方言で、使い方に充分注意をしながら言葉かけを行うなど、プライドを損ねないような対応に努めている。また、個人情報等の書類は厳重に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自らが自然に作った自分のペースを、大切にしている。その日により、ドライブ・買物など、希望する事柄は変わるが、出来る限り本人第一にと考え、希望に沿うよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者・職員と利用者は、全員一緒に食事をしており、食事中も楽しい雰囲気づくりに努めている。食後は、唄あり、片付けありの、明るい食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1年を通して毎日入浴ができる。本人の希望に合わせ、入浴時間も自由だが、毎日午後からになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者と利用者は、親子の様な関係づくりができており、菜園などで共に喜び合いながら協働作業をしている。ドライブや季節の催し等を通し、楽しみや喜びをもって過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に程よい距離に、大型スーパーがある。運動を兼ねた散歩の他、ドライブ・行事への参加等、外出の機会を多くとるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	犯罪防止のため、夜9時から朝5時頃まで施錠するが、日中は施錠しておらず、自由に出入りすることが可能である。ドアにはセンサーがついており、出入りを知ることができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年に入り、消防署に訓練を申請している。防火管理者が中心となり、避難経路の確保や誘導などについて話し合っているが、訓練を実施するまでには至っていない。	○	6月に申請した避難訓練については、ほぼ8月の実施になる予定である。日中の避難訓練はむろんのこと、夜間を想定した訓練も同時に実施するよう望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人管理台帳により、バイタルチェックを毎日行っている。水分摂取量の記録のほか、月1回の体重測定を行うとともに、栄養士による食事献立の作成と指導管理も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を改築した部屋は、広々と明るくゆったりしている。利用者がくつろげる、居心地の良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、自宅で使い慣れた品々を持ち込み、自分らしさを飾りなどで表わしている。大型の家具などは、利用者が安心して過ごせるよう配置にも工夫している。		

※  は、重点項目。